

## 令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語	142人	社会	140人	数学	140人
	理科	140人	英語	139人		

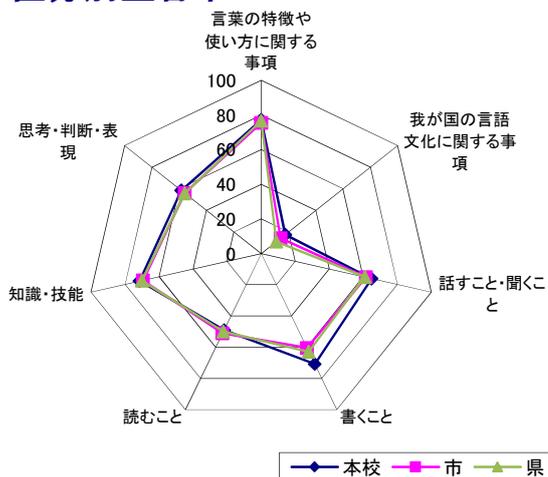
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立一条中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.3	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	17.6	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	65.0	61.6	60.9
	書くこと	70.8	60.4	62.9
	読むこと	48.9	51.0	49.9
観点	知識・技能	71.3	69.4	70.1
	思考・判断・表現	58.4	56.0	55.9



## ★指導の工夫と改善

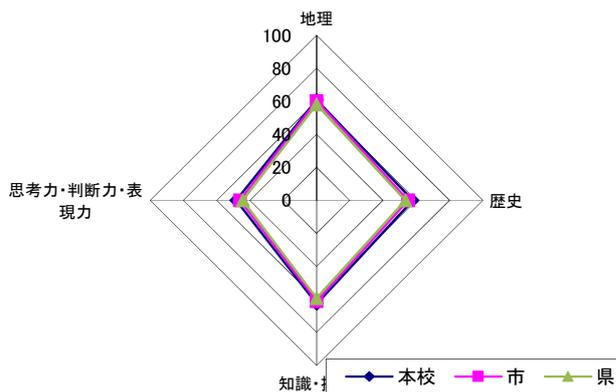
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率について、県平均と比べると+0.6ポイント、市平均と比べると+1.8ポイントであった。</p> <p>○漢字を正しく読む問題の正答率が高い。また、授業でも取り扱った故事成語の使い方は身につけている。</p> <p>●漢字を正しく書く力に課題が見られる。文節の関係についての問題の正答率が低い。</p>	<p>・定期的を実施している漢字テストを継続するとともに、漢字単元の授業では漢字への興味・関心を高めていく。また、文章の中で正しく積極的に使えるよう指導する。</p> <p>・文法においては、1年時の復習を行いながら授業を進めるようにし、文節の関係を含め既習事項の定着を図る。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率について、県平均と比べると+6.4ポイント、市平均と比べると+3.3ポイントであった。</p> <p>○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題においては県や市の平均を上回っている。</p> <p>●しかし、正答率自体は17.6%と低いため、理解が十分であるとは言えない。</p>	<p>・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すための基礎知識を定着させ、古文に触れていく中で理解を深めさせる。</p> <p>・古文を音読する際に歴史的仮名遣いを意識させ、古文の読み方に慣れ親しませる。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率について、県平均と比べると+4.1ポイント、市平均と比べると+3.4ポイントであった。</p> <p>○必要に応じて記録しながら話の内容を捉える問題の正答率が高い。</p> <p>●聞いたことをもとに、条件に従って自分の考えを書く問題においては正答率が低い。</p>	<p>・授業の中での言語活動を充実させ、話すこと・聞くことを意識する場面を適宜設定する。</p> <p>・他者の話を聞き、自分の考えをまとめる活動を取り入れていくことで、聞いたことをもとに自分の意見を持てるように指導する。</p>
書くこと	<p>平均正答率について、県平均と比べると+7.1ポイント、市平均と比べると+10.4ポイントであった。</p> <p>○どの問題においても県や市の平均を大きく上回っており、書く力が育っていることが分かる。</p> <p>●他の問題に比べると、考えや根拠を明確にして書く問題の正答率が低い。</p>	<p>・自分の考えを明確にして書く力を高めるために、意見文などの活動を取り入れ、論理的な文章の書き方を指導する。</p> <p>・書くことへの苦手意識を取り除くためにも、意見をまとめる方法や根拠を提示する方法などを、具体的に分かりやすく提示する。</p> <p>・机間指導や作文添削を通して、個別指導の充実を図る。</p>
読むこと	<p>平均正答率について、県平均と比べると-1.0ポイント、市平均と比べると-2.1ポイントであった。</p> <p>○文章を読んで自分の考えを深める問題や、表現の効果について考える問題の正答率は県や市の平均より高い。</p> <p>●登場人物の心情の変化を捉える問題の正答率が低い。</p>	<p>・文学作品については登場人物の心情の変化を捉える際に注目すべき表現を取り上げ、考えることで、読み取る力を伸ばしていく。</p> <p>・心情と結びついた動作や行動、登場人物の表情や態度、情景描写など様々な表現に注目し、根拠をもって心情を捉えられるように指導する。</p>

# 宇都宮市立一条中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	60.9	60.1	58.1
	歴史	58.0	55.1	53.5
観点	知識・技能	62.8	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	48.3	46.0	44.3



## ★指導の工夫と改善

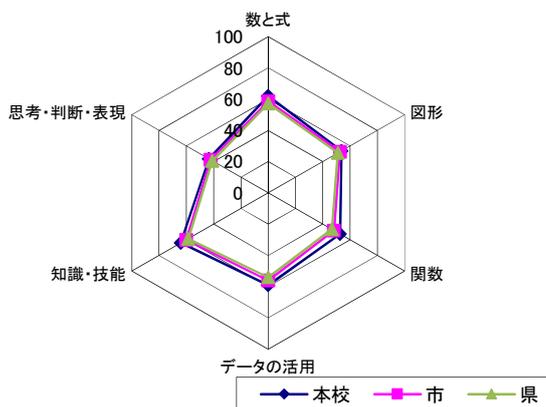
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率について、県平均と比べると+2.8ポイント、市平均と比べると+0.8ポイントであった。</p> <p>○大問2(3)や大問4(1)のように、地図中の位置を把握し、該当する場所を適切に選択する問題の正答率が高い。掛地図やGoogleEarthなど、地図資料を用いた授業実践の成果であると考えられる。</p> <p>○資料をもとに、人口構成の特徴を考えて記述する問題の正答率が市の平均を7.6ポイント上回っている。毎授業の振り返りを文章で書かせる活動を行ってきたことで、思考力・判断力・表現力が身に付いていると考えられる。</p> <p>●「世界と日本の地域構成」に関する問題の正答率が全体的に低い。特に、排他的経済水域や日本の領域に関する問題の正答率が低い。中学1年生当初の内容が定着していない生徒が多いと考えられる。</p> <p>●グラフ資料から、移民の推移を導き出す問題の正答率が市の平均を4.8ポイント下回っている。統計資料を適切に読み取ることを苦手とする生徒が多いと考えられる。</p>	<p>・今後も、世界地図や日本地図、地球儀などの教具を用いて基礎的な知識を身に付けた上で、複数の主題図や雨温図、統計資料などから情報を読み取り、考えたことをまとめる授業を実践することで、思考力・判断力・表現力を高める。</p> <p>・統計資料から必要な情報を適切に読み取り、判断して解答する問題の正答率が低い傾向にあるため、教科書や資料集から効果的な資料を抽出し授業で取り上げることで、資料活用の技能を高める授業実践により力を入れていきたい。</p> <p>・中学1年生当初の内容が定着していない傾向にあるため、家庭学習の充実化を呼びかけていくとともに、授業の中で既習事項の復習になるような場面を積極的に作っていききたい。</p>
歴史	<p>平均正答率について、県平均と比べると+4.5ポイント、市平均と比べると+2.9ポイントであった。</p> <p>○大問6(3)や大問7(3)のように、資料を適切に読み取り、自分の考えを記述する問題の正答率が全体的に高い。毎授業の振り返りを文章で書かせる活動を行ってきたことで、思考力・判断力・表現力が身に付いていると考えられる。</p> <p>○大問6(1)や大問7(4)のように、当時の政治の内容や社会の情勢について適切なものを選択する問題の正答率が全体的に高い。教科書の重要語句を暗記するのみならず、板書を大事にし、時代の流れや概要を抑える授業の成果であると考えられる。</p> <p>●「古代までの日本」の旧石器時代や古代文明に関する問題の正答率が全体的に低い。中学1年生当初の内容が定着していない生徒が多いと考えられる。</p> <p>●資料の文章から、その軍記物の名称を読み取り答える問題の正答率が低い。今後の授業の中で、実際の資料を取り扱う機会を増やす必要があると考えられる。</p>	<p>・今後も、基礎的な知識を身に付けた上で、年表を用いて時代の流れを整理するとともに、各時代の特徴を理解して比較し、時代ごとの共通点や相違点についての考えをまとめる授業を実践することで、思考力・判断力・表現力を高める。</p> <p>・特定の歴史史料の内容を記憶し、活用して解答する問題の正答率が低い傾向にあるため、教科書や資料集の資料を効果的に活用し、生徒の目に触れる場面を増やすなど、資料活用の技能を高める授業実践により力を入れていきたい。</p> <p>・中学1年生当初の内容が定着していない傾向にあるため、家庭学習の充実化を呼びかけていくとともに、授業の中で既習事項の復習になるような場面を積極的に作っていききたい。</p>

# 宇都宮市立一条中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	62.0	58.6	57.2
	図形	53.8	52.6	51.1
	関数	52.7	48.2	46.8
	データの活用	59.1	56.1	54.1
観点	知識・技能	64.1	60.2	58.6
	思考・判断・表現	43.6	42.3	40.9



## ★指導の工夫と改善

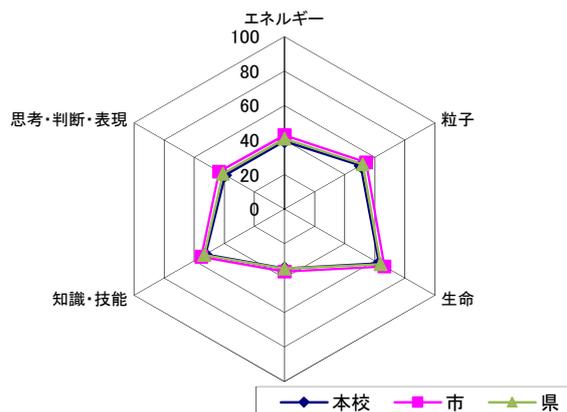
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率について、県平均と比べると+4.8ポイント、市平均と比べると+3.4ポイントであった。</p> <p>○正負の数の基礎的な計算力が身につけてきている。また、文字と数の区別ができています。</p> <p>●与えられた式の意味を理解することや、その式の意味を説明することに課題が見られる。分数を含む計算に課題が見られる。</p>	<p>・分数を含む計算の機会を増やし、計算方法に慣れさせていく必要がある。また、誤答例を取り上げ、計算過程を振り返りながら、どこに誤りがあるかを見出し、正しい計算の仕方を確認する。</p> <p>・立式の手順を考え、その手順を考察する活動を取り入れる。また、意図した結果が得られなかった場合には、どこを修正すればよいのかを振り返ることで、解の吟味の有用性を確認する。</p>
図形	<p>平均正答率について、県平均と比べると+2.7ポイント、市平均と比べると+1.2ポイントであった。</p> <p>○おうぎ形と円の比例関係にある事柄の理解が深まりつつある。また、求積する際の基本的な公式は身につけている。</p> <p>●空間的なものの見方に課題が見られる。ねじれの位置を考えたり、回転体の表面積、体積を求めることに課題が見られる。</p>	<p>・空間図形について、見取図のみの考察で終わるのではなく、身近な立体を見たり、実際に触れたりしながら、様々な方向や視点から空間図形を観察し、辺や面の位置関係を理解できるようにする。</p> <p>・回転体や複雑な立体の求積の指導に関しては、その図形が成り立つ場面をコンピュータ等を活用し見せることで、知っている立体の組み合わせになっていることを理解させたい。</p>
関数	<p>平均正答率について、県平均と比べると+5.9ポイント、市平均と比べると+4.5ポイントであった。</p> <p>○比例の式から、比例のグラフをかく技能が身につけている。また、表にある数の並びから、比例の式を選ぶことができる。</p> <p>●文字を使って式に表したり、グラフにすることに課題が見られる。</p>	<p>・伴って変化する2つの数量が何かを確認する作業を通し、文章題から変化の仕方に気づき、式を立てる練習をする必要がある。</p> <p>・グラフの特徴と式を関連付けて考察する場面を設定し、グラフからxとyの関係を式で表すことができるよう、繰り返し練習する。</p>
データの活用	<p>平均正答率について、県平均と比べると+5.0ポイント、市平均と比べると+3.0ポイントであった。</p> <p>○階級の幅を意識したヒストグラムを作成する技能は身につけている。</p> <p>●相対度数や階級値といった用語の意味と求め方の定着が図られていない。平均値を正しく求める式の理解に課題が見られる。</p>	<p>・中学生になってから学習した用語についての理解が不十分であった。練習不足が原因であるので、学習してからの期間の間に十分な演習量を確保できるように、授業を計画し確実な理解と定着が図れるようにしていく。</p> <p>・TT授業や習熟度別学習を活用し、資料から読み取った様子を自分の言葉で表現する活動を通し、思考力を育みたい。</p>

# 宇都宮市立一条中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	39.4	42.8	40.8
	粒子	50.5	54.2	52.0
	生命	62.9	66.4	63.8
	地球	34.5	36.2	34.5
観点	知識・技能	52.5	55.2	53.3
	思考・判断・表現	39.6	43.5	41.0



## ★指導の工夫と改善

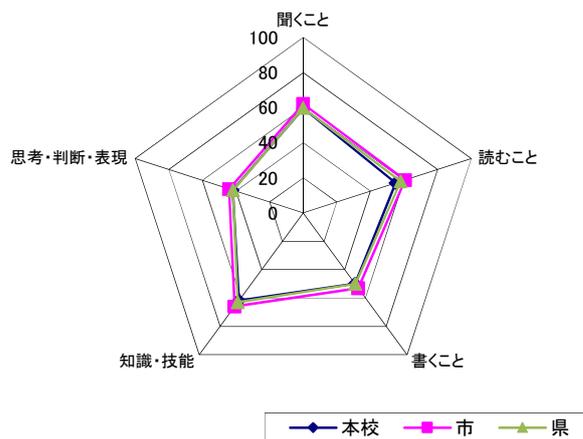
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率について、県平均と比べると-1.4ポイント、市平均と比べると-3.4ポイントであった。</p> <p>○ばねの伸びをグラフから値を読み取り、判断する。高難易度の問に対しては、正答率が市を上回っているため、グラフの読み取りに関して、理解が高い。</p> <p>●音の高さと振動数の関係など、知識を問う問に対して正答率が低い。</p>	<p>グラフなどから判断する力は身につけているため、用語や性質などの知識の定着を図る。</p> <p>そのためには、小テストや授業の復習などで、用語に触れる機会を増やす必要がある。</p>
粒子	<p>平均正答率について、県平均と比べると-1.5ポイント、市平均と比べると-3.7ポイントであった。</p> <p>○鉄を調べる実験や、気体を調べる実験の手法を答える問の正答率が高く、実験操作の理解が高い。</p> <p>●提示された性質から、物質を特定するなど、知識を問う問に対し、正答率が低い。</p>	<p>実験手法の定着は見られるため、用語や性質などの知識の定着を図る。</p> <p>そのために、小テストや授業の復習などで、用語に触れる機会を増やす必要がある。また、物質の名称だけではなく、性質を理解する必要がある分野であるため、知識の定着を図る際には、用語と性質をセットで提示していく必要がある。</p>
生命	<p>平均正答率について、県平均と比べると-0.9ポイント、市平均と比べると-3.5ポイントであった。</p> <p>○植物の花のつくりについての正答率が高く、植物についての理解度が高い。</p> <p>●両生類の肺の形成についての説明など、文章で説明する問に対し、正答率が低い。</p>	<p>用語は定着しているため、成長の過程を説明することや、環境と生態について説明することなど、言語活動をより多く取り入れていきたい。</p> <p>生物について調べ、レポートを書くなど、文章を書く活動を取り入れる必要がある。</p>
地球	<p>平均正答率について、県平均と同ポイント、市平均と比べると-1.7ポイントであった。</p> <p>○示準化石の名称を答える問の正答率が特に高く、その他の用語も市の平均以上に正答している。</p> <p>●マグマのねばりけと火山の形の関係など、地形が形成される経緯を問う問に対し、正答率が低い。</p>	<p>用語は定着しているため、地形が成り立つ過程の理解や、地層の重なり方の経緯など、理論的に考え、判断する活動を取り入れたい。</p> <p>復習のテストを行うなどし、何を理解する必要があるのかの確認を行う必要がある。</p>

# 宇都宮市立一条中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	59.6	62.0	59.7
	読むこと	55.0	60.6	58.0
	書くこと	49.8	53.1	50.1
観点	知識・技能	61.8	66.0	63.0
	思考・判断・表現	42.0	44.1	41.7



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率が県平均と比べて0.1, 市の平均と比べて2.4下回った。</p> <p>○絵を適切に表している英文を選ぶ問題においては正答率78.4%と県平均と同じくらい。短い説明文での情報を正確に聞き取る能力は高いと考えられる。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、適切に応答しているものを選ぶ問題は、県平均を約4ポイント下回った。聞き取った情報を適切に整理する力が不十分であることがわかる。</p>	<p>英語での授業を理解できているかより慎重に確認しながら、使う語彙に留意して英語を教師が話す機会を増やす。</p> <p>ALTとの会話の機会を増やし、ネイティブなスピードの英語での会話に慣れさせる。</p>
読むこと	<p>平均正答率が県平均と比べて3.0, 市の平均と比べて5.4下回った。</p> <p>○英文を読んで概要を理解し、英文にふさわしいタイトルを選ぶ問題の正答率は県平均と同等だということから、英文の概要をつかむ力は育っていることがわかる。</p> <p>●対話から必要な情報を読み取り、適切な表やグラフを選ぶ問題の正答率が低いことから、英文の細部まで読んで、複数の情報を適切に選出する力が不十分であると考えられる。</p>	<p>基本的な文法事項の定着を目指すとともに、長文を読むことに慣れさせる機会を増やしていく。その際、制限時間内に大まかな内容を理解する練習と、指示詞が何を指すのかや登場人物の心情や状況を表す語句などを明確にできるよう、繰り返し練習をする。</p>
書くこと	<p>平均正答率が県平均と比べて0.3, 市の平均と比べて3.3下回った。</p> <p>○be動詞や一般動詞を用いた英作文の問題は県平均を約5ポイント上回っていることから、一年生での既習事項の基礎はおおまか定着していると言える。</p> <p>●与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の can を使った肯定文を正確に書く問題においては、県平均を約10ポイント下回っている。助動詞の使い方の理解が不十分である生徒が多いと考えられる。</p>	<p>自分の状況や意見を書いて表現する機会を増やすことで、英語で表現しようとする意欲を高める。また、与えられたキーワードや条件のもとで英文を書く活動を増やし、その際、時制や語順に関して、その都度助言をする。友人同士で助言し合ったり、書いた文を見せ合ったりすることで、互いの意欲と自信を高めていく。</p>

## 宇都宮市立一条中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に「はい」と回答した生徒は36.7%で、市や県を8~9ポイント上回っている。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に対する肯定割合が93.5%、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の質問の肯定割合が89.5%と市や県の割合より高いことから、課題解決に向けて話し合う活動を効果的に取り入れる工夫をしている成果が表れている。

○「将来の夢や目標を持っている」の質問に対する肯定割合は、81.3%で市の平均より11.7ポイント、県の平均より10.9ポイント高い。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」や「自分も持っている能力を十分に発揮したい」の質問に対する肯定割合は高く、「家の人と将来のことについて話すことがある」の質問に「はい」と回答した生徒は過半数を超えている。家庭との連携を図りながら、様々な場面において個々のよさを認め、それを発揮できる指導を継続したい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に対する本校の肯定割合は71.2%であり、市や県より8ポイント高く、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は69.1%と県と比べて11~12ポイント高い。しかし「テストで間違えた問題について勉強している」の質問に対する肯定割合は66.2%と県や市の割合と変わらない。自主学习ノートや学習計画表の内容について、適切なアドバイスをするとともに、苦手な内容も諦めず、粘り強く学習に取り組むことの大切さを伝えたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月~金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に「全くしない」と回答した生徒が県や市の割合を上回っており、30分より少ないと合わせると70%を超えている。多くの言葉や情報、多様な考えや価値観に触れ、知識を深め、表現の幅を広げることができるよう、家庭での読書の習慣を確立させたい。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<p>・主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。</p>	<p>思考力・判断力・表現力を育てる場の設定                      ・伝え合う力の育成に向けての学び合いの場の設定と、多様な思考や表現を生み出す学習活動の工夫をする。</p> <p>学習意欲を育てるために、動機づけをする場の設定                      ・学習目標の明確化と、生徒が学習の主体となる授業展開の工夫をする。</p>	<p>・「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」について、「はい」が市や県より7.5ポイントほど高い。</p> <p>・「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」では、「はい」が市より19.8、県より11.8ポイント高い。</p> <p>・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」や「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」でも、肯定回答率が、市や県より上回っている。</p> <p>・「クラスは発言しやすい雰囲気である」と答えた生徒の肯定回答率は、市や県より高く、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という問いへの肯定回答率も市や県より高い。</p> <p>このことから、本校生徒は、多くの話し合いの場で自分の意見を言う機会を多く持ち、得意としていることが分かる。</p> <p>・「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の肯定回答率も高いことから、他人の意見にも耳を傾け、その中で、自分の意見を述べていることが分かる。</p> <p>・「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」について「はい」が市より15.8、県より7.5ポイント高い。</p> <p>・「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」への「はい」の肯定回答率も市より5.2、県より2.0ポイント高い。</p> <p>・「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」への「はい」の回答率は、市より14、県より6.9ポイント高い。</p> <p>このことから、本校生徒は、授業のねらいを意識しながら学習に取り組む、授業後も学習内容を振り返る活動を行っていると考えられる。</p>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>本校生徒は自己肯定感が高く、将来に希望を持ち、前向きに学習に取り組んでいるという調査結果が出ている。質問紙への回答では、自分の考えを文章にまとめて書くことをへの苦手意識はない。しかしながら、条件に従って自分の考えを書く問題や、考えや根拠を明確にして書く問題への正答率が低いという結果が出た。また、資料を基に読み取ったり、文章で説明する問題の中に、正答率が低いものもみられる。</p>	<p>思考力・判断力・表現力を育てる場の設定                      ・自分の考えをまとめる力の育成</p>	<p>本校では朝の読書の時間を設けているが、上記の分析にあるように、学校で決められた時間以外での読書時間は30分以下と答えた生徒が70%を超えている。本を読むことへの興味を高める工夫をするとともに、本校で行われているNIE活動を活用し、新聞記事に触れる機会をさらに増やすなどして、文章を読み解き、自分の考えを持ち、文章にまとめる力を育む工夫をしていく。</p> <p>各教科の授業での話し合いの場は多く持たれており、自分の意見を発表することは得意と感じているが、根拠を明確にし、文章としてまとめる力は足りていないという結果が出ているため、発言することに加え、文章でまとめる時間をさらにとっていくことも必要である。</p>